

自己愛傾向と理想自己

——理想自己の記述に注目して——

小塩真司*・小平英志**

問 題

Freud(1914)は自己愛的な対象選択として、(a)現在の自分、(b)過去の自分、(c)そうになりたい自分、(d)自己自身の一部であった人物をあげ、自己愛型の人はこれらすべてを愛すると述べている。また Kernberg (1997)によると、病的な自己愛をもつ人においては、実際の自己に対する肯定的な認知が、理想自己および理想対象と癒合しているという。このように、自己愛の病理性を論じる際には、自己の2つの要素である現実の自己と理想の自己との関係を考慮することが重要なトピックの1つであると考えられる。

これまでにいくつかの研究で、自己愛と現実自己・理想自己との関連が検討されている。Emmons (1984) は NPI と複数の自己に関連する指標との検討を行う中で、Self-Perception Inventory を用いて現実—理想不一致を測定し、現実—理想不一致得点と「他者の利用・権利の主張 (Exploitativeness / Entitlement)」下位尺度を除く NPI の各得点との間に $r = -.35$ から $r = -.42$ の負の相関係数が得られたことを報告している。また Raskin & Terry (1988) は、Interpersonal Check List (Leary, 1956) を用いて現実自己と理想自己をそれぞれ測定し、NPI との関連を検討している。そして、NPI と現実—理想間の一致得点とは正の相関関係にあること ($r = .28$)、NPI の下位尺度に注目すると、「権力 (Authority)」と「優越 (Superiority)」の

* 人文学部助教授—性格心理学・青年心理学

** 人文学部非常勤講師・名古屋大学大学院—性格心理学・社会心理学

みにおいて現実－理想間の一致得点との間に有意な正の相関がみられたこと（それぞれ $r = .30$, $r = .22$ ）、さらに自己愛傾向が正の関連をする理想自己には、攻撃性や競争心、支配性、反抗心など否定的な意味合いも含まれることを報告している。

これらの先行研究から、自己愛傾向が高いほど現実自己と理想自己が一致する傾向にあり、自己愛傾向が低いほど不一致の傾向にあること、そして自己愛傾向が高い者の理想自己には低い者とは異なる内容が含まれる傾向にあることが示唆される。しかし、これらの先行研究で用いられた現実自己と理想自己の測定方法は、研究者が用意したチェックリストの項目に対して現実の自分の状態と理想の自分の状態それぞれについて回答するという、法則定立的方法が用いられている。このような手法を用いた場合、個人が意識しやすい、また重要視する理想自己がチェックリストに含まれていないという可能性が考えられる。また逆にあまり意識しない、重要視しない項目が含まれている場合もあろう。近年では、調査対象者が自ら再生した属性語を用いる、個性記述的方法による理想自己や自己不一致の測定法が提唱されている。例えば、Higgins, Klein & Strauman (1985) で自己不一致の測定に用いられた Selves Questionnaire では、調査対象者に目標となる自己（例えば、理想自己）と現実自己を、それぞれ 10 個ずつ自由に記述するように求める。研究者はこの記述を基に、目標となる自己と現実自己との同意・反意関係の個数から自己不一致の程度を得点化する。また、小平（2002）は、理想自己を 5 個記述するように求め、それぞれに対して「実際の自分はどの程度あてはまるか」（現実自己）を評定するように求める自己不一致測定票を用いている。

このような個性記述的方法を基にした測定法のメリットは、その個人の自己の枠組みに沿った、意味のある理想自己や自己不一致を測定できる点にあるとされる。Selves Questionnaire を用いて自己不一致を測定した場合、従来の法則定立的方法を用いるよりも自尊心との負の関連が強くなること（Moretti & Higgins, 1990）が示されており、より簡易的な方法である自己不一致測定票に関しても、特に自己意識が高く言語表現力が十分にある対象者に関して、従来の方法よりも自尊心との強い関連がみられることが示され

ている(小平, 2004)。そこで本研究では、個性記述の方法に基づいた理想自己の測定を行い、現実自己との不一致の程度と記述された理想自己の内容そのものに焦点を当てることにする。

小塩 (2002) は、NPI-S (Narcissistic Personality Inventory - Short version; 小塩, 1998, 1999) の3つの下位尺度得点に対して主成分分析を行うことにより、自己愛の全体的な高さを意味する「自己愛総合」の軸と、「注目一賞賛欲求」と「自己主張性」のどちらが優位かを意味する「注目一主張」の軸を見いだしている。そしてこれらを組み合わせることにより、自己愛が全体的に高い者の中にも、「注目一賞賛欲求」が相対的に高い者と「自己主張性」が相対的に高い者が存在することを示した。小塩 (2004 a) は、このような自己愛の分類を自己愛傾向の2成分モデルと名付けている。自己愛傾向の2成分モデルは、臨床場面で指摘される自己愛を、他者の反応に無関心なタイプと他者の反応に敏感なタイプに分類するという議論 (例えばGabbard, 1994) を参考としたものであり、以下のような前提に基づくものである (小塩, 2004 b)。第1に、これらの先行研究における自己愛の類型は、臨床場面において自己愛的と診断された者を、特定の基準によってさらに2つのグループに分類したものであり、測定の際にも自己愛全体が高い者を2群に分類することが自己愛の類型を行う上で妥当な考え方であろうという前提である。第2に、上記のような臨床場面に基づく2種類の自己愛は集団を分類するものであるため、2種類の自己愛は特性ではなく類型として把握されるべきであろうという前提である。第3に、Gabbard (1994) の理論では、「無関心型 (oblivious type)」と「過敏型 (hypervigilant type)」が連続体上の両極に位置するものであるとされるため、自己愛総合と直交する「注目一主張」の軸が、この連続体上の両極に相当するという前提である。また Gabbard (1994) は、自己愛的な患者の多くは2つのタイプの混合した様相を呈すると述べているが、これは自己愛傾向の2成分モデルにおいては、「注目一主張」の両極の間に多くの人々が位置することで表現される (小塩, 2004 b)。

自己愛傾向の2成分モデルを用いたこれまでの研究において、自己愛傾向が全体的に高く注目・賞賛欲求が優位な者は対人恐怖的で間接的な攻撃を行

い、社会志向的で精神的に健康を示す傾向にあり、友人から調和的で弱い人間だと評価される傾向にあること（小塩，2002），大学生生活全般に不安を感じており評価不安が高いこと（小塩，2004 b）が報告されている。その一方で、自己愛傾向が全体的に高く自己主張性が優位な者は、対人恐怖の傾向を示さず言語的な攻撃を行い、個人志向的で精神的に健康な者であり、友人から調和的でなく強い人間だと評価される傾向にあること（小塩，2002），大学生生活において不安を感じない傾向にあること（小塩，2004 b）が報告されている。しかし、自己愛の病理性を考慮する際に基本的で重要な視点の1つであると考えられる、現実自己および理想自己と自己愛傾向の2成分モデルとの関係はこれまでに検討されていない。

以上の議論に基づき、本研究では個性記述的な手法を用いて個人がもつ具体的な理想自己の状態を測定し、自己愛傾向の2成分モデルの枠組みとの関係を検討する。

方 法

調査対象・調査時期

愛知県内の大学生 485 名（男性 245 名，女性 240 名，平均年齢 19.77 歳）を対象に、講義時間を利用して一斉に調査を行った。調査時期は 2001 年 4 月であった。

調査内容

自己愛人格目録短縮版（NPI-S） 小塩（1998，1999）が作成した NPI-S を用いた。NPI-S は他者よりも優れているといった強い自己肯定感を意味する「優越感・有能感」，他者から注目や賞賛をされたいという強い欲求を意味する「注目・賞賛欲求」，自分の考えを他者に主張するという、やや自己中心的な行動を意味する「自己主張性」の3つの下位尺度，30の質問項目で構成されている。「とてもよく当てはまる」から「まったく当てはまらない」までの5件法で測定した。

自己不一致測定票 小平 (2002) の方法で測定した。理想の (こうありたい) 自分の状態について、それぞれの状態を表す記述を 5 つ挙げるよう求めた。次に、挙げられた語それぞれについてどの程度「実際の自分」に当てはまるかを「全く当てはまらない」から「非常に当てはまる」までの 5 件法で評定するよう求めた。

結果と考察

分析対象

回答に不備のある者を除いた 451 名 (男性 227 名, 女性 224 名) を以下の分析対象とした。分析対象は、全調査対象の 92.99% であった。

各尺度の分析

NPI-S については各下位尺度に相当する項目平均値を算出し、「優越感・有能感」得点, 「注目・賞賛欲求」得点, 「自己主張性」得点とした。小塩 (2002) と同様に, NPI-S の 3 つの下位尺度をさらに要約するために主成分分析を行った。累積寄与率が 80% を超えたことから 2 成分を採用した (Table 1)。第 1 主成分は NPI-S によって測定された自己愛傾向の総合指標としての意味合いをもつと考えられる (以下「自己愛総合」)。第 2 主成分は「注目・賞賛欲求」が優位であるか, 「自己主張性」が優位であるかを表すと考えられる (以下「注目—主張」)。

Table 1 NPI-S の主成分分析結果と下位尺度間相関, 平均および SD

	重み		相関係数			平均	SD
	I	II	1	2	3		
1. 優越感・有能感	.65	-.20	—			2.66	.55
2. 注目・賞賛欲求	.45	.88	.26	—		3.37	.67
3. 自己主張性	.62	-.42	.47	.18	—	3.01	.62

注) 相関係数は全て 0.1% 水準で有意

次に、第1・第2主成分の主成分得点を各被調査者ごとに算出し、各主成分得点の高低によって被調査者を4つの群に分類した：自己愛低・主張優位群108名、自己愛低・注目優位群106名、自己愛高・主張優位群120名、自己愛高・注目優位群117名。

自己不一致測定票については、5つの記述に対する「実際の自分」に対する評定値の平均値を一致得点とした。以降の分析においては、一致得点を逆転させた不一致得点（6から一致得点を引いたもの）を用いた。

自己愛傾向と現実—理想自己不一致得点

NPI-Sの下位尺度得点および主成分得点と現実—理想不一致得点との相関係数をTable 2に示す。NPI-Sの下位尺度については、優越感・有能感と自己主張性が不一致得点と有意な負の相関を示したが、注目・賞賛欲求は不一致得点とほぼ無相関であった。また、NPI-Sから算出した主成分得点については、自己愛総合が不一致得点と有意な負の、注目—主張得点が有意な正の相関を示した。

これらの結果は、Emmons (1984) や Raskin & Terry (1988) が報告する結果に一致したものである。また、注目・賞賛欲求が不一致得点とほぼ無相関であるという本研究の結果は、この下位尺度の項目がEmmons (1984) の「他者の利用・権利の主張 (Exploitativeness / Entitlement)」下位尺度に含まれる項目と類似したものであることを反映した結果であると考えられる。

Table 2 NPI-Sの各下位尺度得点および主成分得点と現実—理想不一致得点との関連

	NPI-S 下位尺度得点			主成分得点		平均	SD
	優越・有能	注目・賞賛	自己主張	自己愛総合	注目—主張		
現実—理想 不一致	-.31***	-.04	-.28***	-.31***	.16***	3.06	.85

*** $p < .001$

Table 3 自己愛傾向 4 群別の現実－理想不一致得点と分散分析結果

第 1 主成分	低自己愛	低自己愛	高自己愛	高自己愛	主効果		
第 2 主成分	主張優位	注目優位	主張優位	注目優位	自己愛総合	注目－主張	交互作用
現実－理想	3.23	3.32	2.71	3.02	28.73	6.85	1.91
不一致	(.83)	(.85)	(.68)	(.90)	***	*	n. s.

上段：平均値，下段：(SD)

** $p < .01$ *** $p < .001$

次に、現実－理想不一致得点の自己愛傾向による 4 群の差を検討するため、2 つの主成分得点の高低による 2×2 の分散分析を行った。自己愛傾向 4 群別の現実－理想不一致得点と分散分析結果を Table 3 に示す。分散分析の結果、交互作用は有意ではなく、2 つの主効果がともに有意であった（自己愛総合： $F(1, 447) = 28.73$, $p < .001$ ；注目－主張： $F(1, 447) = 6.85$, $p < .01$ ）。これらの結果から、自己愛全体が低く、注目・賞賛欲求が優位な者ほど、現実－理想間の不一致が大きく、逆に自己愛全体が高く自己主張性が優位な者ほど不一致が小さいことが示された。

理想自己の記述の整理

まず、ここまでの分析対象となった 451 名中、記述に不備のあった 4 名を除く 447 名が回答した 2220 の記述を対象に、完全に一致する記述をまとめた。その結果、1200 種類の記述が確認された。さらに、表現が違うものの同一の内容を示す記述がみられたため、それらを意味の変わらない範囲で統一した。その結果、421 種類にまとめられた。

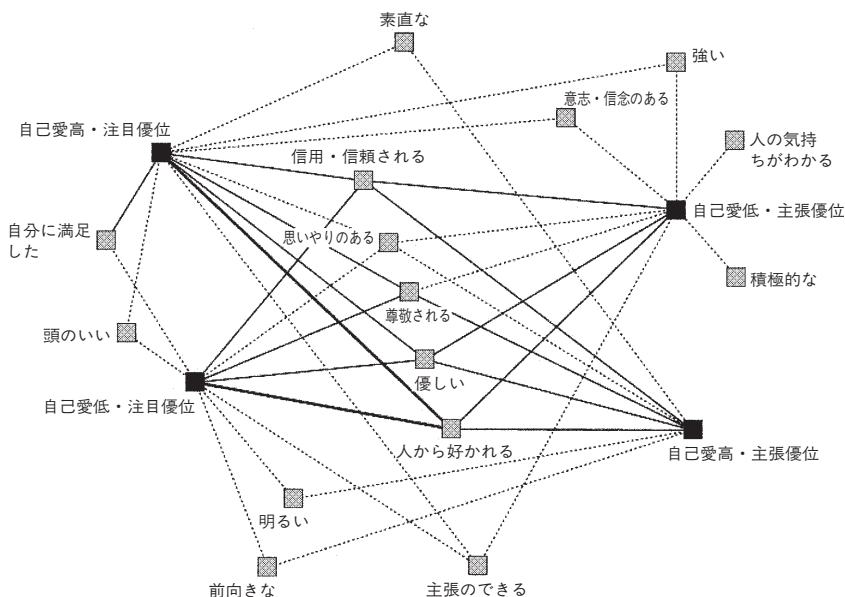
本研究では、できるだけ具体的な記述をそのまま分析することを試みる。そこで、これ以上記述を抽象的なレベルにまとめることを避け、ここでまとめられた 421 種類の記述を用いて分析を行った。なお、ここで分析に用いた 421 種類の記述のうち、頻度 2 以上であった 206 記述を Appendix に示す。

なお、理想自己の全 2220 記述のうち自己愛傾向 4 群別では、高自己愛・注目優位群で 576 記述、高自己愛・主張優位群で 580 記述、低自己愛・注目優

位群で 530 記述，低自己愛・主張優位群で 534 記述がみられた。

自己愛傾向と理想自己の記述との関連

421 種類の理想自己記述それぞれについて，記述された場合に 1，記述されなかった場合に 0 となるようデータを変換した。そして Clementine (8.1) を用いて，終点フィールドを自己愛傾向の 4 群，始点フィールドを理想自己の各記述とし，自己愛傾向による 4 群と理想自己の記述との関連を Web グラフに描いた (Figure 1)。この図では，自己愛傾向による各群の被調査者のうち，いずれかの群において 10%以上の者が記述した理想自己の内容に対してリンクを描いている。なお Table 4 に，Web グラフに描かれた 15 の理想自



注 1：リンクの強さが 10%以上のものを示した。

注 2：破線は 15%未満（弱いリンク），細い実線は 15%以上 36%未満（中程度のリンク），太い実線は 36%以上（強いリンク）を表す。

Figure 1 自己愛傾向 4 群と理想自己の記述との関連を表す Web グラフ

Table 4 Web グラフに描かれた 15 の理想自己の記述数と χ^2 検定結果

	高自己愛 注目優位	高自己愛 主張優位	低自己愛 注目優位	低自己愛 主張優位	合計	
人数	117	117	106	107	447	
記述内容	記述数/(%)	記述数/(%)	記述数/(%)	記述数/(%)	合計	χ^2 値
人から好かれる	51 (43.59)	34 (29.06)	46 (43.40)	29 (27.10)	160	11.59**
優しい	35 (29.91)	36 (30.77)	37 (34.91)	32 (29.91)	140	.86
信用・信頼される	33 (28.21)	27 (23.08)	29 (27.36)	18 (16.82)	107	4.87
尊敬される	22 (18.80)	19 (16.24)	16 (15.09)	13 (12.15)	70	1.93
思いやりのある	15 (12.82)	16 (13.68)	12 (11.32)	13 (12.15)	56	.31
意志・信念のある	12 (10.26)	11 (9.40)	9 (8.49)	15 (14.02)	47	2.02
自分に満足した	18 (15.38)	7 (5.98)	13 (12.26)	8 (7.48)	46	7.01+
強い	14 (11.97)	9 (7.69)	10 (9.43)	12 (11.21)	45	1.40
主張のできる	12 (10.26)	6 (5.13)	12 (11.32)	15 (14.02)	45	5.19
頭のいい	13 (11.11)	9 (7.69)	11 (10.38)	10 (9.35)	43	.88
素直な	13 (11.11)	13 (11.11)	5 (4.72)	9 (8.41)	40	3.71
人の気持ちがわかる	10 (8.55)	11 (9.40)	8 (7.55)	11 (10.28)	40	.54
前向きな	5 (4.27)	12 (10.26)	12 (11.32)	10 (9.35)	39	4.21
明るい	2 (1.71)	14 (11.97)	13 (12.26)	9 (8.41)	38	10.68*
積極的な	3 (2.56)	5 (4.27)	8 (7.55)	13 (12.15)	29	9.76*

+ $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

注) 下線は 10%以上の記述

己の記述数とパーセンテージ，および χ^2 検定の結果を示す。

自己愛傾向による 4 群いずれにおいても 10%以上の者が記述した理想自己の内容は，「人から好かれる」「優しい」「信用・信頼される」「尊敬される」

「思いやりのある」の5つであった。小平（2000）では、理想自己として「対人関係の良さ」に関する記述を挙げた者が、全調査対象者の89%にのぼったことが示されている。同様に本研究の結果からも、いずれの群にかかわらず、他人に対して優しさや思いやりをもって接しつつ、他人からも好意をもたれ、信頼・尊敬されるという状態が重視されている様子がうかがえた。しかし、とりわけ「人から好かれる」については、高自己愛・注目優位群と低自己愛・注目優位群の記述が多い傾向にあった。これは、注目・賞賛欲求優位な者の特徴である他者の評価を気にする傾向が、自分自身の理想として現れた結果であると考えられる。

ここで、自己愛傾向が全体的に高い群に注目し、注目優位の者と主張優位の者を比較してみたい。高自己愛・注目優位群は主張優位群に比べて「自分に満足した」「強い」「主張のできる」といった理想自己の記述が多く、高自己愛・主張優位群は「前向きな」「明るい」という記述が多い傾向にあった。自己不一致得点で主張優位群よりも注目優位群の不一致得点が大きかったことを考慮に入れてこの両者を比較すると、同じ自己愛傾向が全体的に高い群であっても、注目優位群は現在の自分に欠けている要素を補うような理想自己の記述を報告するのに対し、主張優位群は将来に向けた前向きな理想を記述する傾向にあると考えられる。また両者がともに記述する傾向にあった理想自己の内容は「素直な」というものであり、自己愛傾向が全体的に高い者が自分自身をありのままに表出したいという理想をもつ傾向にあることがうかがえる。

その一方で自己愛傾向が全体的に低い群に注目すると、注目優位の者と主張優位の者で顕著な差があるとは言い難い。しかし、注目優位群は「自分に満足した」「明るい」「頭のいい」「前向きな」といった理想を記述する傾向にあった。先に示したように、低自己愛・注目優位群は4群の中で最も現実－理想不一致が大きく、先行研究においてもこの群は対人恐ろ的、抑制的でひきこもりがちであり（小塩，2002）、日常生活不安が高いこと（小塩，2004 b）が報告されている。これらのことを考慮に入れると、低自己愛・注目優位群は、自分自身に欠けている要素を理想として掲げており、その理想と現実と

の差を最も感じている者であると考えられる。

また低自己愛・主張優位群は「意志・信念のある」「強い」「積極的な」といった、他者に負けない、強い人物であるように振る舞うことを意味する理想を記述する一方で、「人の気持ちがわかる」という理想も記述する傾向にあった。この群はこれまでの研究の中で明確な特徴が報告されていないが、本研究では積極的かつ人の気持ちがわかるという理想自己を記述する点において、他の群とはやや異なっていた。小塩(2004 a)はこの群について、やや自信に欠けており、他者の評価をあまり気にせず他者や社会との関係性に意識が向かわない状態にあると示唆している。本研究でこの群が記述した理想自己は、対人関係を志向するものであると考えられ、これはこの群の者が積極的でありつつ他者の気持ちを理解しようとする理想と現実との差を感じていることを示唆していると考えられる。

Table 4 に示されているように、自己愛が全体的に低い者は理想と現実との差を認識する傾向にある。小塩(2004 a)はこれらの群について、“他者に意見を主張したり、他者からの注目や賞賛を得ることによって自己肯定感を維持するというプロセスが何らかの原因で機能せず、自己肯定感が維持できなくなった者であるかもしれない”と述べている。本研究の結果をふまえると、低自己愛・注目優位群と低自己愛・主張優位群はそれぞれ特徴的な理想自己を意識しながらも、その理想との距離を感じており、結果的に自己肯定感に欠けた状態にあるといえるのかもしれない。

まとめと今後の課題

本研究では、現実―理想自己の不一致の程度と理想自己の記述に注目し、自己愛傾向の2成分モデルによって導出された自己愛傾向の4類型の特徴を検討した。結果から、自己愛傾向が全体的に高く自己主張性が優位な者は現実―理想自己の不一致の程度が小さく、自己愛傾向が全体的に低く注目・賞賛欲求が優位な者は現実―理想自己の不一致の程度が大きいことが示され

た。また理想自己の記述については、それぞれの群で特徴的な理想自己を記述する傾向にあることが示された。本研究の結果は、自己愛傾向の高い群であっても否定的な意味合いの理想自己が報告されなかったという点で Raskin & Terry (1988) とは異なっていた。しかし、本研究で用いた理想自己の測定方法は個性記述的な手法を用いたものであり、本研究で得られた結果は自己愛傾向による各群に所属する者が現実として所有する自己指針に近いものであると考えられる。

ただし本研究では現実—理想自己の不一致の程度と理想自己の記述を別々に分析しているため、それぞれの群がどのような記述に対してどの程度の不一致を感じているのかについては明らかになっていない。今後は、理想自己の記述と不一致の程度を同時に評価することを考慮に入れつつ、引き続き検討を重ねていく必要があるだろう。

文 献

- Emmons, R. A. 1984 Factor analysis and construct validity of the narcissistic personality inventory. *Journal of Personality Assessment*, 48, 291-300.
- Freud, S. 1914 On narcissism: An introduction. (フロイト, S. 懸田克躬・吉村博次 (訳) 1969 ナルシシズム入門 フロイト著作集 5 性欲論・症例研究 人文書院 pp. 109-132.)
- Gabbard, G. O. 1994 *Psychodynamic psychiatry in clinical practice: The DSM-IV edition*. Washington: American Psychiatric Press.
- Higgins, E. T., Klein, R., & Strauman, T. 1985 Self-concept discrepancy theory: A psychological model for distinguishing among different aspects of depression and anxiety. *Social cognition*, 3, 51-76.
- Kernberg, P. F. 1997 Developmental aspects of normal and pathological narcissism. In E. F. Ronningstam *Disorders of Narcissism: Diagnostic, Clinical, and Empirical Implications*. Washington, D.C.: American Psychiatric Press. pp. 103-120. (カーンバーグ, P. F. 2003 正常な自己愛と病的自己愛の発達の側面 ロニングスタム, E. F. (編) 佐野信也 (監訳) 自己愛の障害—診断的, 臨床的,

- 経験的意義— 金剛出版 pp. 102-116.)
- 小平英志 2000 日本人にとって理想自己と義務自己はどのように異なる自己なのか—日本の大学生が記述する属性語とカテゴリーの分析を通して— 性格心理学研究, 8, 113-124.
- 小平英志 2002 女子大学生における自己不一致と優越感・有能感, 自己嫌悪感との関連—理想自己と義務自己の相対的重要性の観点から— 実験社会心理学研究, 41, 165-174.
- 小平英志 2004 個性記述的視点による自己不一致の測定はいつ有用か?—self-esteem との関連から— 日本教育心理学会第 46 回総会発表論文集, 42.
- Leary, T. 1956 *A manual for the use of the interpersonal system of personality*. Berkeley: Psychological Consultation Service.
- Moretti, M. M. & Higgins, E. T. 1990 Relating self-discrepancy to self esteem. *Journal of Experimental Social Psychology*, 26, 108-123.
- 小塩真司 1998 自己愛傾向に関する一研究—性役割観との関連— 名古屋大学教育学部紀要 (心理学), 45, 45-53.
- 小塩真司 1999 高校生における自己愛傾向と友人関係のあり方との関連 性格心理学研究, 8, 1-11.
- 小塩真司 2002 自己愛傾向によって青年を分類する試み—対人関係と適応, 友人によるイメージ評定からみた特徴— 教育心理学研究, 50, 261-270.
- 小塩真司 2004 a 自己愛の青年心理学 ナカニシヤ出版
- 小塩真司 2004 b 自己愛傾向と大学生活不安の関連 中部大学人文学部研究論集, 12, 67-78.
- Raskin, R., & Terry, H. 1988 A principal-components analysis of the narcissistic personality inventory and further evidence of its construct validity. *Journal of Personality and Social Psychology*, 54, 890-902.

Appendix 頻度2以上の理想自己の記述

	人数	高自己愛 注目優位	高自己愛 主張優位	低自己愛 注目優位	低自己愛 主張優位	合計
		117	117	106	107	447
記述内容		記述数	記述数	記述数	記述数	合計
1 人から好かれる		51	34	46	29	160
2 優しい		35	36	37	32	140
3 信用・信頼される		33	27	29	18	107
4 尊敬される		22	19	16	13	70
5 思いやりのある		15	16	12	13	56
6 意志・信念のある		12	11	9	15	47
7 自分に満足した		18	7	13	8	46
8 強い		14	9	10	12	45
9 主張のできる		12	6	12	15	45
10 頭のいい		13	9	11	10	43
11 素直な		13	13	5	9	40
12 人の気持ちかわかる		10	11	8	11	40
13 前向きな		5	12	12	10	39
14 明るい		2	14	13	9	38
15 積極的な		3	5	8	13	29
16 楽しい		9	6	8	5	28
17 格好のよい		9	8	6	2	25
18 面白い		10	3	6	4	23
19 健康な		5	9	5	4	23
20 努力する		9	9	3	0	21
21 正直な		6	6	5	4	21
22 夢のある		4	7	6	4	21
23 責任感のある		4	6	2	8	20
24 気配りできる		3	4	4	7	18
25 社交的な		3	5	3	6	17
26 実行力のある		4	6	3	3	16
27 個性のある		5	3	2	5	15
28 話し上手な		3	2	3	7	15
29 お金のある		6	3	4	1	14
30 寛大な		3	2	7	2	14
31 協調性のある		2	5	4	3	14
32 意見・考えをもった		1	2	6	5	14
33 目標をもった		5	6	1	1	13
34 冷静な		4	4	2	3	13
35 友達・仲間の多い		3	4	4	2	13
36 笑顔な		3	3	3	3	12
37 有能な		2	7	1	2	12
38 自分をもった		2	4	3	3	12

(続き)

39	元気な	2	3	3	4	12
40	役に立つ	0	5	4	3	12
41	仲良くできる	6	0	5	0	11
42	行動力のある	2	3	2	4	11
43	真面目な	1	6	2	2	11
44	幸せな	5	0	4	1	10
45	親切的な	1	3	1	5	10
46	決断力のある	1	3	3	3	10
47	しっかりした	1	1	3	5	10
48	自信をもった	6	1	1	1	9
49	頑張る	5	0	1	3	9
50	自由な	4	3	2	0	9
51	分別のある	2	3	1	3	9
52	厳格な	2	3	1	3	9
53	我慢強い	2	1	4	2	9
54	活動的な	1	1	2	5	9
55	人を助ける	3	3	2	0	8
56	聞き上手な	1	3	2	2	8
57	流されない	1	2	1	4	8
58	自立した	0	4	1	3	8
59	一生懸命な	5	0	1	1	7
60	信用・信頼する	2	1	3	1	7
61	人に尽くす	2	1	2	2	7
62	ポジティブ・プラス思考な	2	0	3	2	7
63	中心的存在の	1	2	3	1	7
64	精神的に安定した	1	0	4	2	7
65	誠実な	0	4	3	0	7
66	人の話を聞く	3	1	1	1	6
67	完全な	3	0	0	3	6
68	人から注目される	1	1	2	2	6
69	外見のよい	1	0	2	3	6
70	自分らしい	0	5	0	1	6
71	理解力のある	0	2	2	2	6
72	人を愛する	2	2	0	1	5
73	熱い	2	2	0	1	5
74	人を楽しませる	2	1	1	1	5
75	才能のある	2	0	1	2	5
76	諦めない	1	2	1	1	5
77	知識のある	1	2	1	1	5
78	温かい	1	2	0	2	5
79	人見知りしない	1	1	3	0	5
80	要領がいい	1	1	2	1	5
81	気の利く	1	1	1	2	5
82	落ち着いた	1	1	1	2	5
83	楽しむ	1	1	0	3	5

(続き)

84	平等な	1	1	0	3	5
85	裏表のない	0	1	2	2	5
86	人気のある	4	0	0	0	4
87	魅力のある	3	0	1	0	4
88	正しい	2	1	1	0	4
89	心のきれいな	2	1	1	0	4
90	人から愛される	2	0	1	1	4
91	人間らしい	1	1	1	1	4
92	約束を守る	1	1	1	1	4
93	場を盛り上げる	1	1	1	1	4
94	男らしい	1	1	1	1	4
95	器用な	1	1	1	1	4
96	感情豊かな	1	1	0	2	4
97	必要とされる	1	0	3	0	4
98	こなす	1	0	2	1	4
99	嘘をつかない	1	0	1	2	4
100	迷惑をかけない	0	4	0	0	4
101	達成する	0	4	0	0	4
102	常識のある	0	3	1	0	4
103	外向的な	0	2	0	2	4
104	礼儀正しい	0	2	2	0	4
105	表現できる	0	2	1	1	4
106	人目を気にしない	0	1	0	3	4
107	上手にこなす	0	1	0	3	4
108	家族・友人を大切にする	3	0	0	0	3
109	劣らない	2	1	0	0	3
110	センスのある	2	1	0	0	3
111	夢を実現する	2	0	1	0	3
112	英語が得意な	2	0	0	1	3
113	きれいな	2	0	0	1	3
114	持続力のある	2	0	0	1	3
115	満足のいく生き方をする	1	2	0	0	3
116	適応的な	1	2	0	0	3
117	マナーを守る	1	2	0	0	3
118	おしゃれな	1	1	1	0	3
119	誉められる	1	1	0	1	3
120	感情をコントロールできる	1	1	0	1	3
121	向上心のある	1	1	0	1	3
122	視野の広い	1	1	0	1	3
123	人を幸せにする	1	1	0	1	3
124	まっすぐな	1	0	1	1	3
125	穏やかな	0	2	1	0	3
126	純粋な	0	2	1	0	3
127	創造的な	0	2	0	1	3
128	時間を守る	0	2	0	1	3

(続き)

129	人を傷つけない	0	1	2	0	3
130	好奇心旺盛な	0	1	2	0	3
131	器の大きい	0	1	1	1	3
132	すごい	0	1	1	1	3
133	余裕のある	0	1	1	1	3
134	たくましい	0	1	0	2	3
135	くよくよしない	0	0	3	0	3
136	堂々とした	0	0	3	0	3
137	認められる	0	0	2	1	3
138	気がつく	0	0	2	1	3
139	かわいい	0	0	1	2	3
140	おおらかな	0	0	0	3	3
141	気持ちのいい	2	0	0	0	2
142	料理が上手な	2	0	0	0	2
143	人から目標とされる	2	0	0	0	2
144	特技のある	2	0	0	0	2
145	人から必要とされる	2	0	0	0	2
146	柔軟な	2	0	0	0	2
147	暴力を振るわない	1	1	0	0	2
148	運動が好きな	1	1	0	0	2
149	素敵な	1	1	0	0	2
150	人を尊敬する	1	1	0	0	2
151	計画的な	1	1	0	0	2
152	挑戦する	1	1	0	0	2
153	将来性のある	1	1	0	0	2
154	自然な	1	0	1	0	2
155	世渡り上手な	1	0	1	0	2
156	注目される	1	0	1	0	2
157	大事なものを守れる	1	0	1	0	2
158	気楽な	1	0	1	0	2
159	器量のよい	1	0	1	0	2
160	よい	1	0	1	0	2
161	人からよく思われる	1	0	0	1	2
162	子どもに好かれる	1	0	0	1	2
163	大人な	1	0	0	1	2
164	一途な	1	0	0	1	2
165	人を大切にする	1	0	0	1	2
166	大きい	1	0	0	1	2
167	仕事のできる	1	0	0	1	2
168	きちんとした	1	0	0	1	2
169	運のよい	1	0	0	1	2
170	若い	0	2	0	0	2
171	てきぱきとした	0	2	0	0	2
172	熱心に取り組む	0	2	0	0	2
173	自慢できる	0	2	0	0	2

(続き)

174	面倒くさがらない	0	2	0	0	2
175	人に影響を与える	0	1	1	0	2
176	心が大きい	0	1	1	0	2
177	道徳的な	0	1	1	0	2
178	優れた	0	1	1	0	2
179	温和な	0	1	1	0	2
180	先を見据えた	0	1	1	0	2
181	普通の	0	1	1	0	2
182	理性のある	0	1	1	0	2
183	能力のある	0	1	0	1	2
184	自分勝手な	0	1	0	1	2
185	生き生きした	0	1	0	1	2
186	意欲のある	0	1	0	1	2
187	人の意見を聞く	0	1	0	1	2
188	人を元気にする	0	1	0	1	2
189	嫉妬深くない	0	1	0	1	2
190	立派な	0	1	0	1	2
191	熱中する	0	1	0	1	2
192	美しい	0	1	0	1	2
193	悪口を言わない	0	0	2	0	2
194	目標のある	0	0	2	0	2
195	けじめのある	0	0	2	0	2
196	感謝する	0	0	1	1	2
197	自分を理解した	0	0	1	1	2
198	遊び心のある	0	0	1	1	2
199	判断力のある	0	0	1	1	2
200	楽観的な	0	0	1	1	2
201	やせた	0	0	1	1	2
202	考える	0	0	0	2	2
203	悲観的でない	0	0	0	2	2
204	疲れない	0	0	0	2	2
205	嫌われない	0	0	0	2	2
206	生きる価値のある	0	0	0	2	2
合計		529	516	485	475	2005

(2004年10月21日 受理)